



2022年

みやま

第294号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



浪岡政美さんが亡くなりました

院長 平川 淳一

長らくデイケアを支えてくれていた浪岡さんが令和4年10月28日に亡くなりました。今年の春から体調を崩していましたが、自分が休むとせっかく頑張っているデイケアの仲間の病状が悪くなると、相当無理していたと思います。それでも精査の結果、治療困難な白血病という診断でした。1度、退院し7月くらいに病院に来てくれたときは、「また、必ず復帰しますから、席を空けておいてください。」と伝えてくれて、「もちろん待っているから、頑張る。」と肩を抱いたことを覚えています。浪岡さんは、昭和55年（1980年）に入職し、42年間患者さんのために命を削ってくれました。事務所に人がいないときは応援にきてくれたり、労働組合が団体交渉やストライキをしているときも、これに対応してくれたり、病院幹部としてもよくやってくれました。晩年は、アディクションにのめり込んで、アルコール依存症の人たちのために全身全霊を注いでいたと思います。病床に伏しているときも、「今日は院外活動の日だ。」とか、「〇〇さんは断酒しているのか。」など、患者さんのことしか言わなかったようです。コロナ禍で家族葬となりましたが、ご家族のご厚意で、10人の参加枠をいただきました。この家族葬に、デイケアメンバーの参加も許可をいただいたので、デイケアプログラムとして、浪岡さんの葬儀にできることを企画し、お別れをしてきました。また、家族葬の前の2日間、1時間面会の時間も作っていただきました。そこに80人を超える面会の列ができて、葬儀社の人から、「浪岡さんってどんな人だったんですか。こんなに人がきたことはありません。」とご家族が聞かれたそうです。本当に素晴らしい人だったと思います。とても残念でなりません。デイケアの部屋にいくと、浪岡さんの遺影が飾ってあります。マスクをして優しい目をした浪岡さんがいます。心からご冥福をお祈りします。



【表紙】院長あいさつ 【P2】病棟たより(東館) 【P3】発達障害連載企画(第3回)
【P4】歯科から 【P5】精神科デイケアにおける就労支援状況の報告
【P6・7】東京精神科病院協会学会参加レポート 【P8】ヤクルトをいただきました!

ベッド・マットレスが新しくなりました

東3病棟・東5病棟 師長 古谷 圭吾

9月末に院内の全ベッド・マットレスの調査を行い東館中心に約90台のベッド・マットレスの入れ替えを行いました。東館は3つの精神科療養病棟で合計133床になります。調査の結果、30年以上経過したベッドの多くが東館にありました。それらのベッドはキャスターが無かったり、ギャッチアップ用のハンドルが破損していたり、錆びや変形などもありました。以前は比較的若く、ADLが高い患者様が中心でしたが、療養病棟の役割も時代とともに変化しており、今では以前と比べ、高齢者の増加、合併症身体ケアの必要な患者様の増加等、介護度が高くなっています。

そんな中、適切な療養環境の検討、業務改善の取り組み等からベッド・マットレス入れ替えが決まり、大規模なベッド入れ替えプロジェクトとなり、プロジェクトチームを発足。ニーズ調査やメーカーとの打ち合わせ、展示場への見学等を数か月の間あわせて行い、9月のベッド入れ替えの運びとなりました。

入れ替えは2日間に分け、患者様にもご協力いただきながら、無事終了しました。今回、東館のすべてのベッド・マットレスではありませんが、新しいベッド・マットレスになった患者様からは「快適になった」「寝起きがしやすくなった」「よく眠れます」等のご意見をいただきました。スタッフからは「介護しやすくなった」「ベッド移動が楽になった」「患者様の活動が増えました」等の意見、感想が挙がっていました。

今後もより良い医療提供、療養環境の提供ができるよう努めていきたいと思っております。



発達障害連載企画

地域生活支援室より

第3回：発達障害専門プログラムについて

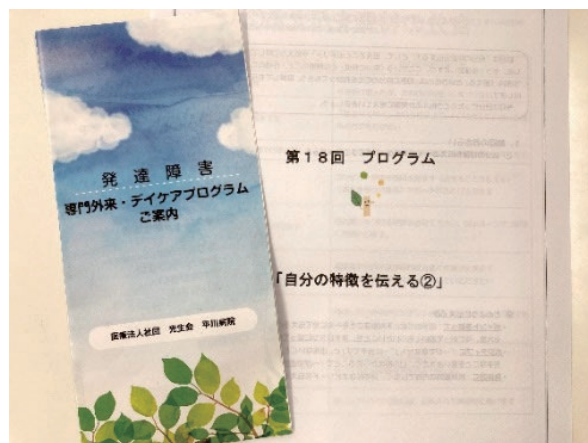
地域支援科 公認心理師 山崎 恵莉菜

今回はデイケアで行っている発達障害専門プログラムについてご紹介したいと思います。このプログラムは昭和大学烏山病院で行われているものを参考にして、2018年に立ち上げ、はや4年が経ちました。

プログラムではASD（自閉症スペクトラム障害）と診断を受けた方を対象にしており、毎週水曜日、13:30～15:30の時間を使って行います。全部で20回ありますので、参加者の方々には5か月間通っていただくこととなります。この20回を通して、①会話の始め方や続け方・終わり方、表情の読み取りなどのコミュニケーションスキルに関するポイントを学んだり、②感情のコントロールやストレス対処などの自己対処力を身につける方法について学んだり、③自分の得意・不得意を客観的に把握し、今後就労を目指す上で自分の特徴を相手にどう伝えていくかなど、実践的なことについても扱っていきます。講義だけでなく、ディスカッションを行ったり、ウォーミングアップを通じた他者交流や自己表現の練習も行いますので、緊張が強かった方も段々と馴染んできて、自分の意見や体験を口にすることも多いです。利用者の方々からは、同じような苦しみを抱えている仲間が

いるので話しやすい、今まで周りに理解されない苦しみをわかってもらえるといった感想もいただきます。また、当院ではデイケアの強みである就労支援のネットワークを活用して、実際に就労支援施設のスタッフから施設概要や利用方法について説明してもらったり、利用している方々のお話を聞くなどの機会を設け、就労のイメージが広がるような工夫もしています。

本プログラムを修了されてから、どういう道を辿っているかは様々ですが、就労移行支援事業所などに通ってお仕事を始められるようになったり、引きこもり状態で家族としか接点がないような方が、デイケアに通って社会と少しずつ接点を持てるようになったりなど、良い変化が生まれています。



プログラムへの参加をご希望の方へ

プログラムへの参加をご希望の方には、デイケアやプログラムの見学もご案内しています。（事前に当院の診察を受けて頂きます）
デイケアやプログラムの内容は、参加希望時や見学時に、スタッフが説明を行いますので、お気軽にご相談ください。

8年目ですが、はじめまして…

歯科から

歯科 非常勤歯科医師 小谷 岳司

平川病院に2ヶ月に1回勤務させていただいています歯科医師の小谷岳司（おだにたけし）と申します。平川病院で診療を始めてから8年ほど経ちますが、勤務日が少ないため僕のことを知らない人も多いと思いますので、これをきっかけに知っていただければ幸いです。

先日、奥多摩の山を24時間以内に自力でゴールを目指す「日本山岳耐久レース」というレースに参加し、22時間58分で無事に完走（完歩）しました。一晩中雨が降り、平坦な道を歩くのもままならないほどの過酷な状況でしたが、ドロドロの選手同士が励まし合いながらゴールを目指す姿は、先の見えないコロナ禍をなんとか打開しようと知恵を出しあい収束を目指してきた医療従事者の姿と重なりました。やむを得ずあきらめなくてはならなかった人達も、もう一度戻ってきてもらいたいなと思いました。レースは個人競技ですが、周囲の人達に助けられまくった23時間でした。

さて、本題です。

僕は昭和大学の第二口腔外科学教室（現顎口腔疾患制御外科学講座）で学び、その後都内の病院口腔外科の勤務を経て現在は神奈川県内の歯科医院で院長をしています。都内の病院の口腔外科では今でも非常勤医師として外来や当直を行なっています。



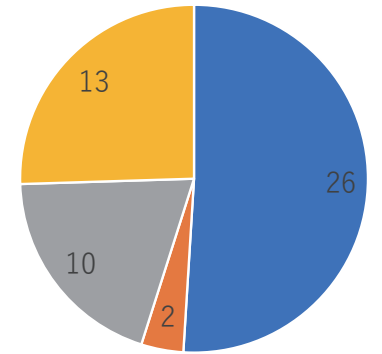
僕の特徴はとりわけ有病者の歯科治療において、口腔外科領域のみならず幅広い診療を行えることにあります。口腔外科がベースになりますが、歯科医院では一般的な歯科治療も行っており、他にも自宅や介護施設などで診療を行う訪問歯科診療や認知症ケア専門士として認知症患者様の歯科治療なども行ってきました。また、昭和大学口腔リハビリテーション科の兼任講師として摂食嚥下障害の勉強もしてきました。有病者の口腔内のトラブルは原因が1つでないことも多く、限られた専門分野だけでは対応しきれないことがほとんどです。

診療日は限られてしましますが、一般歯科治療から専門性が重視される口腔外科まで幅広い範囲の診療をおこなっていますので、有病者の歯科治療、親知らずの抜歯、顎関節症、粘膜疾患など、お口の中の困りごとがある方は、どうぞお気軽にご相談ください。

精神科デイケアにおける就労支援状況の報告 —多様な働き方を応援しています—

医療の質向上促進委員会 デイケア科 主任 山下 美香

精神科デイケアメンバーの社会復帰状況 令和4年3月現在



■ 就労継続支援事業所B型 ■ 就労移行支援事業所
■ 一般就労(障害者雇用) ■ 一般就労(通常雇用)

就労継続支援事業所B型：26名

注釈1) 通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動(軽作業・清掃・接客など事業所によりさまざま)の機会の提供。その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援が行われます。

就労移行支援事業所：2名

注釈2) 通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、生産活動(事務・軽作業・接客など事業所によりさまざま)、一般企業における職場体験等の活動の機会の提供。その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、求職活動に関する支援、就職後の職場定着のための相談等の支援を行います。

一般就労(障害者雇用)：10名

注釈3) 障害者雇用とは、障害のある方ひとり一人の特性に合わせた働き方ができるように、企業や自治体などが障害のある方を雇用する制度のことを言います。当院のメンバーでは地方自治体の任用職員、銀行や企業などの事務補助、医療・福祉施設における清掃、食品販売店における軽作業・接客に従事されています。

一般就労(通常雇用)：13名

注釈4) 障害のない人と同様の雇用条件で働いている人もいます。障害者雇用と同様に事務補助、清掃、軽作業といった職種に勤務している方、それ以外にも保健外交、デイサービス、保育所などで働いている方もいます。

上のグラフは平川病院精神科デイケアのメンバーの就労に関連した社会復帰状況を示したものです。精神科デイケアには統合失調症、気分障害、発達障害など様々な診断名のメンバーが来所されており、令和4年3月現在で104名の方が登録をされています。そのうち、51名の方が一般就労(業種としては事務補助・軽作業・清掃などが多くです)あるいは福祉的就労(就労継続支援事業所など)に従事されています。平成30年4月から精神障害者についても障害者雇用の雇用率の対象となり、令和3年4月には障害者雇用率は2.3%にまで引き上げられています。以前は精神障害者が一般企業で就労することに制度的にも、支援方法としても制限を感じる場面が多くありました。それが、ずいぶんと風向きが変わったことをデイケアの現場でも感じます。特にメンバーの患者としての側面について発病から治療、そして回復までの道程を最も長く共にできる医療機関が就労支援に関わることは大きな支えとなることがわかります。

昨今、医療機関が軸となったIPSモデルという就労支援の実践も注目をされています。IPS(Individual Placement and Support:個別型援助付き雇用)は米国で開発された一般就労を通して精神障害者個人のリハビリをを目指す就労支援モデルのことです。就労継続支援事業所など訓練事業所を利用しながら段階的に就労準備性を高める支援とは異なり、必要なスキルは就職後に働きながら習得を目指すという考え方にに基づきます。そのためデイケアプログラムを利用して一定の負荷を体験しながら、症状管理の自己理解をしていくことが有効になります。平川病院はアルコールデイケアもあり、訓練事業所の支援対象から外されてしまう中で就労支援を行う実践も重ねてきました。IPSに近い形でハローワークと直にやり取りをしながら就労支援を行うケースもありました。また院長や看護部の計らいで院内での就労にも門戸を開いてもらったケースがあり、院内での職場開拓も行われています。今後も個人の希望に合わせた就労支援と、それが疾患の治療につながるような工夫をしていきたいと考えています。

第34回 東京精神科病院協会学会参加レポート



10月26日、新宿京王プラザホテルにて、第34回東京精神科病院協会学会が開催されました。昨年はコロナの影響で開催は見合わされましたが、今年は感染状況が落ち着いていることもあり3年ぶりの開催となります。当院からは口演発表2演題発表しました。

当日の様子



東精協会長として開会の挨拶をする平川院長



シンポジウムの様子



座長を務めた作業療法科 土屋科長



座長を務めた南3病棟 高木師長



参加者全員での集合写真

発表者より一言

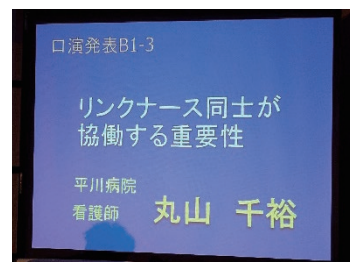


●●● 南2病棟 主任 丸山千裕 ●●●

この度、第34回東京都精神科協会で「リンクナース同士が協働する重要性」というテーマで看護研究を発表させて頂きました。実は、もう3年程前からテーマを決めて、指導を頂きながらコツコツとすすめてきた、思いの詰まった研究でした。発表時間は短かったですが、これほど緊張した時間は初めてでした。せっかくなので、少しご紹介させて頂きます。

感染対策は常に「100-1=0」つまり、一人でも対策を間違えば水の泡、という意味です。そのため当院のリンクナースは、感染ラウンドの指摘に対し改善策を考案すること、実践することに奮闘しています。しかし、当然負担は大きく、改善策の考案に限界もあります。そこで、PNS（パートナーシップナーシングシステム）という看護方式が持つ「補完性の原理」を利用したことで、負担の軽減と改善策の増加、看護師の成長に繋がったという結果が得られました。補完性の原理は汎用性が高いと考えられ、今後同じ目的・役割を持つ看護師間に利用することで、患者様にとってより安全な医療となるよう看護の持つ力が発揮できるのではないかと考えています。

ご指導賜りました院長、先生方、看護部長・師長方、看護師、多職種、そして研究に協力頂いた看護師に改めて感謝致します。



●●● 作業療法科 岡本晃宜 ●●●

入職して4年が経過し、アルコール依存症治療病棟を担当させていただいている作業療法科の岡本です。アルコール専門治療病棟では様々なプログラムを行っていますが、アルコール依存症は否認の病と呼ばれ、病気に対する関心は乏しくプログラム中の参加姿勢は表面的かつ受け身の人が多いです。また、プログラム中の患者様同士のコミュニケーションは乏しいです。このような患者様たちとの出会いを通じて今すでに行っている入院治療に加え、我々にできることはないのか？という疑問を抱いていました。

そこで、患者様同士のコミュニケーションがより活発となり、治療プログラムへ積極的に取り組めるようなプログラムを4月より導入しました。今回の東精協学会では、新規に導入した卓上ゲームやコミュニケーションカードを使用したミーティングの紹介と患者様から頂いたご意見等に関して発表しました。

私自身、今回のような学会発表は初の経験でして、発表中の記憶は曖昧で物凄く緊張した事は覚えております。しかし、平川の職員の方々よりたくさんの激励のお言葉を頂き、平川病院の代表としてとにかく堂々と喋るよう心掛けました。発表に対して他病院の方々より様々な意見を頂いたことは日々のプログラムの意欲や自信に繋がりと、今後のアルコール依存症治療に大いに役立たせていきたいです。



ヤクルトを頂きました！

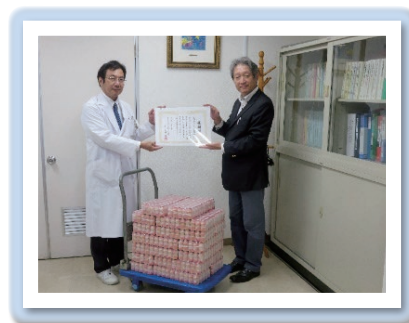
平川病院 広報委員会

10月14日（金）西都ヤクルト販売株式会社様が当院に来院され、「現在、医療従事者の方が忙しく大変な中で頑張っているので支援したい」という思いから、ヤクルト1000本をプレゼントして頂きました。この活動は、当院だけではなく他の医療機関にも贈呈されているそうです。日々の業務に加えてコロナウイルスなどの対応に追われ大変な思いをしている医療従事者にとって、このような温かいご支援を頂いた事は、本当に嬉しく思います。

当院からは、感謝の気持ちを込めて感謝状を渡させて頂きました。

当日来院された、西都ヤクルト販売株式会社の営業本部長の松山智行様、総務部健康推進課次長の小川勝義様、係長の池田博様、本当にありがとうございました。

コロナの第8波、またインフルエンザとのダブル流行などが懸念され、まだまだ予断を許さない状況が続きますが、頂いたヤクルトを飲んでパワーに変え日々の業務に努めていきます！！



編集後記

秋が短く感じ、急に寒くなったと思ったら11月に入っても昼間は20℃以上の日が続き、未だに事務室に扇風機がある。秋野菜の生育にとっては悪いことではなく、平川農場の野菜も元気である。当農場では農薬を使っていないこともあり、見事に大根の葉っぱも虫さんに食べられている。ある意味、虫さんが美味しく食べられるので、人間にとっても安全かと。お父さんが娘のことを「変な虫が付くと困る」と心配？・・・虫も食わないのも困るか(^_^)。

今度は寒さに乾燥、日本の四季の移り変わりは早い。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

